

議長（竹島ユリ子君） 4番 川崎和夫君。

4番（川崎和夫君） おはようございます。

去る9月4日に行われた舟橋村の防災訓練について質問いたします。

今災害は日本列島至るところでいつどのように襲ってくるかもわからないわけであり、そうしたときに、いつでも災害に関心を持ち、災害に対する心構えをしっかりとしていかなければならないと考えているわけです。

大地震などに対する防災対策、とりわけ舟橋村として万全の防災のための体制をつくるには、行政のハード面を含む施策だけでは不十分であり、地域の防災力の向上が不可欠ではないかと考えます。

また、訓練を実施したから防災対策としては万全であるとは言えません。訓練で得た知識や反省点も含め検証することや、多くの人に参加していただくことにより、実践的な防災対策が講じられるものでないかと考えております。

大規模災害時に迅速な初動体制を確立し、的確な応急対策をとることは被害を最小限に軽減するために重要であり、そのためには日ごろから実践的な対応力を身につけておく必要があると思います。

舟橋村として大規模な訓練は2年前に国土交通省から実施協力要請を受け実施したのと、今回は二度目であります。

9月4日の当日は、連日の猛暑の中3会場に分かれて防災訓練が実施され、多くの地域住民の方が参加されました。また、9月定例会の村長の提案理由の説明の中で、訓練を通して災害時の応急対策や被害の拡大防止対策など、防災意識の普及啓発が図られたと述べられましたが、私は若干の物足りなさを感じました。

今回の訓練の目的として、大規模地震災害等の各種災害を想定した実践的かつ広域的な災害応急等の防災訓練を実施し、防災計画等の円滑な運用に資するとともに、防災思想の普及啓発を図ると、防災計画にうたっております。

既に防災訓練の反省と総括はなされていると思いますが、当日の小学校のグラウンドの様子を見ていて感じたことは、マイクの音量が小さく、どこで何が行われているのか、また全体の流れが把握しにくく、わかりにくい状況でありました。

舟橋村としての防災訓練は、一昨年に続き二度目ですが、訓練なれしていないせいか、訓練への緊張感というのはあまり感じられませんでした。地区公民館への第一次避難から、舟橋小学校への第二次避難と、参加者が続々と会場に到着しても、日陰で

待機させているだけで何の工夫、呼びかけも感じられませんでした。

訓練の想定は、魚津断層帯を震源とする地震災害であったわけですが、会場の様子はそのようなシミュレーションとはほど遠いもので、地震による災害情報の伝達もなく、避難だけが目的であったように思われます。

今回の訓練の目的が、避難誘導だけでなく、舟橋村の防災マニュアルにも沿った危機管理の訓練であったかとも思います。情報伝達と非常時における関係機関の役割と連携について確認し、また防災対応について点検をし、せっかく多くの方に参加してもらった機会であったのですから、ハンドマイクと各テントでの説明と参加を積極的に繰り返し呼びかけるべきではなかったかとも思います。

災害が発生と同時に災害対策本部を設置し、社会福祉協議会に災害救援ボランティア本部の設置を要請する流れになっているわけですが、現地対策本部、災害救援ボランティア本部の役割を積極的に住民に知らせるいい機会でもあったと思います。

暑い中での訓練で関係者には大変なご苦労もあったかとは思いますが、災害は時と場所を選ばないわけですから、訓練に参加された方が納得いく住民のための訓練であったと、一層防災への理解を深めていく必要があるのではないかと思います。

訓練を終了して、以下の3点について質問いたします。

1、現地対策本部の機能は十分に果たせたか。また問題はどのようなものであったか。
2、参加者の啓蒙について成果はどうであったか。3、各種団体との連携はうまくいったか。問題点はなかったか。どこに問題があったか、計画立案、訓練後の検証が非常に大切になってくるわけです。

災害は起こらなければ一番よいわけですが、災害に対しての日ごろからの備えも大事になってきております。今回の防災訓練に際しては、村としてそれなりの予算を組んで実施したわけですから、それなりの成果を期待して質問を終わりたいと思います。

以上です。

議長（竹島ヨリ子君） 総務課長 古越邦男君。

総務課長（古越邦男君） 川崎議員のご質問にお答えをさせていただきます。

1つ目のご質問は、現地対策本部の機能は十分果たしていたのか、問題点はなかったのかとのご質問でございます。

現地対策本部の機能は、二次避難場所全体を掌握することございまして、具体的には、各地区から避難された住民の方々の確認と避難場所の利用案内及び訓練内容のPR

が主な業務でございました。

午前9時15分に二次避難指示が各地区へ伝達されまして、一次避難場所である地区公民館から徒歩にて小学校グラウンドに集合する避難誘導訓練では、学校に近い地区の皆さんが流れる汗をふきふき到着されまして、グラウンド横でしばらく待機されておりました。当日は大変な猛暑でございまして、熱中症も心配されましたので体育館ピロティへの移動をお願いしております。ペットボトルをお配りいたしまして、水分補給と体力回復に努めていただきました。本部には保健師も待機させておりましたが、幸い体調不良等を訴えられる方はいらっしゃいませんでした。

また、当初本部席横に展示しておりましたパンフレット類も、ピロティ下へ移動し、参加者の目に触れるよう工夫いたしたところでございます。

会場内では、富山県看護協会の負傷者の応急処置訓練、AED及び心肺蘇生の講習やライフライン施設等の復旧対策訓練等、生命と財産を守るための実技講習が実施されました。消火活動訓練では、各地区2名ずつ実際に消火器を使って火を消していただくなど一定の成果を上げることができました。

しかし、議員ご指摘のとおり、小学校の屋外スピーカーを使用して場内アナウンスを行ったわけでございますが、音量が小さかったため会場全域に声が届かず、今どこで何の訓練がなされているのか参加者にわかりづかったことは反省すべきことと思っております。ほかにも会場案内図が掲示されていなかったこと、本部員の役割分担が不明確であったこと、多くの方が集まる会場でだれが本部員なのか、すぐ判断できる服装が整っていなかったこと等、本部運営に関し改善すべき点が幾つかございました。反省し今後の訓練に生かしていきたいと考えております。

2つ目は、参加者の啓蒙について成果があったのかとのご質問でございます。

今回は、「午前7時に震度6強の地震が発生した」との想定のもと訓練が開始されております。避難誘導訓練を中心に、災害時要援護者の安否確認訓練や災害ボランティア本部立ち上げ訓練、飲料水確保訓練等さまざまな内容を取り入れた総合的な訓練でございました。

東芦原団地公園では、消雪用井戸を利用した給水システムによる飲料水確保訓練を実施いたしました。地震により水道施設が使用できず、消雪用井戸から飲料水を確保する訓練でございまして、消雪用井戸を作動させる訓練、東芦原地区内の3地区の皆さんによるポリタンクに給水し、地区公民館まで運搬する訓練、消防団は井戸水を利用した放

水訓練など、万が一の場合を想定しました訓練に参加された皆さんは真剣そのものだったと聞き及んでおります。石井知事、鹿熊県議会議長も現場を視察されたこと、村長と知事がくみ上げた井戸水を飲んでいる記事が新聞に報道されましたことは、特徴ある訓練として認められたものと関係者一同心を強くいたしました。

二次避難場所でも、災害時の対応について数々の普及啓発を図りました。ライフラインの保守点検をする関連業界の皆さんによる訓練、参加者全員に配布いたしました非常時持ち出し袋は、災害発生時、危険からいかに自身を守るか。どのように家族の安全を確保するか、再確認いただけたものと考えております。

今回は、地震と局地的な集中豪雨の2つの災害想定で実施されましたが、実際はうだるような暑さの中での訓練となりました。災害は、いつやってくるかわかりません。暑いからといって、雨だからといって待ってはくれません。訓練のための訓練とならないよう、今後とも村民の防災意識を高めるよう努めてまいりたいと思っております。

3つ目は、各種団体との連携はうまくいったのか、問題点はなかったのかとのご質問でございます。

今回の訓練には、自治会、消防団、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、中新川福社会等の全面的なご協力を得まして、実施することができました。改めて関係の皆様へ感謝とお礼を申し上げたいと思っております。

今回のような大がかりな訓練では、関係団体との連携なくしては到底実施できるものではございませんでした。情報伝達訓練、避難誘導訓練を実施するに当たり、一次避難場所となりました地区公民館の開放、二次避難訓練のための人員確保と参加者氏名報告等各地区自治会長さんには大変ご協力、お世話をいただきました。山崎議員も自治会長としてご協力いただきましてありがとうございました。

消防団には訓練スタート時から団員集合訓練、被害状況把握訓練や二次避難誘導訓練、東芦原地区での消火栓放水訓練等多岐にわたり従事していただきました。社会福祉協議会と民生児童委員協議会の連携によります災害時要援護者安否確認訓練、また、県社協とタイアップした災害ボランティアセンター立ち上げと救護支援活動も機動的な対応をしていただきました。炊き出し訓練を担当されました日赤奉仕団は、対策本部の要請を受けた後は、会員相互の連絡、炊き出し道具の運搬設営、終了後の後片づけ等すべて会員のみで対応され、実践さながらの行動をしていただきました。

それぞれ積極的な運営で所期の成果をおさめていただけたものと考えております。今

月中には、参加いただきました各団体との事後検討会を開催いたしまして、問題点、改善点の洗い出しを行い、今後に活かしてまいりたいというふうに考えております。

以上、答弁とさせていただきます。